

## 「新たな差別を生まないために」

新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、社会に広がりつつある差別や人権侵害に不安を感じています。病気や目に見えないものへの恐怖心をあおり、人々を差別に駆り立てた事例は、これまでも歴史の中で繰り返されてきたからです。

たとえばハンセン病は、かつては恐ろしい伝染病と考えられ、法律によって患者の強制収容が続けられていました。各県では「無らい県運動」という名のもとに患者を見つけ出し、療養所に入所させる施策が行われていたのです。ハンセン病と診断されると、自宅は徹底的に消毒され、家

tomonikiuru

族まで地域から排除され差別を受けました。そのような光景は、人々の心の中にハンセン病は恐ろしいというイメージを植え付け、社会全体が偏見や差別を助長していったのです。

ハンセン病は、原因菌の感染力が非常に弱く、感染しても発症することはほとんどないといわれています。しかし、今でも根深い差別意識によって故郷や家族、そして社会との絆を取り戻すことができないう現状があります。

ハンセン病問題から学ぶことは、差別につながる不安に振り回されないことです。そのためには、より一層人権に配慮した冷静な行動が求められます。自分の気持ちやふるまいを見つめなおしてみよう。一人ひとりの行動で、差別を止めることができます。

社会教育指導員 野中久美子

## 市交際費の支出状況



令和2年5月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔慰	今月分	0	0
	累計	3	36,500
見舞い	今月分	0	0
	累計	0	0
御祝	今月分	0	0
	累計	0	0
賛助	今月分	0	0
	累計	0	0
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接遇	今月分	0	0
	累計	0	0
会費	今月分	0	0
	累計	0	0
その他	今月分	0	0
	累計	0	0
合計	今月分	0	0
	累計	3	36,500

※くわしくは市のホームページに掲載しています

問い合わせ 総務課 秘書係  
☎75-2115

市長コラム

## Message for citizen



市長「コラム」



続けていた新型コロナウイルス感染症による移動自粛は6月19日に解除され、都道府県を越える移動が可能となり、通常に戻る期待が広まっています。

でも東京等で感染者が続き、油断大敵です。「3密」を避け、人との距離をとり、手洗い・消毒・マスク着用は今の常識です。

世界を見ると6月18日の1日感染者数は実に18万人超とも言われ、国内のムードとは違い、パンデミック(感染爆発)の危機感が世界にあります。

政府は「新しい生活様式」を発表しています。新型コロナウイルスが存在し続ける中、的確な感染予防と適切な対応の心がけと実行が重要だからです。

日々の生活、買物でのレジ待ちの距離の取り方やキャッシュレス決済、通勤通学時の感染防止マナー、テレワークやWEB会議等の働き方をはじめ多様なシーンの例も示されています。

## 新しい生活様式と未来への学び

市長 横尾俊彦

6月23日記

ウイルスは自ら動けず、人に付着し感染拡大となります。だから感染防止には手洗い・消毒、人との距離の確保や接触頻度の削減が重要です。お互いの健康と命のため、しばらくは皆で防止策厳守継続が肝心です。改めて皆様の協力をお願いします。

6月の「多久市少年の主張発表会」で、子どもたちが各々の夢などを熱く語りました。「多久市の子どもが1人1台タブレットをもつことについて」の発表もありました。全児童生徒に1人1台が叶うと、今回の感染症でも学習が継続でき、さらに多様な活用も可能ですと子ども目線からの期待が光ります。その推進は国策として予算確保され、今がチャンスといえます。より良い推進を追求していきます。去年のような大雨被害がないことを願いつつ、新しい生活様式を実践し、未来への努力を重ねていきたい夏到来です。